

静岡県の 近代化 遺産

土地の記憶ともいえるべき建造物。
それらは近代和風や、西欧の
近代的手法により構築され、
地域の近代化の歩みを現代に伝える
貴重な文化遺産です。

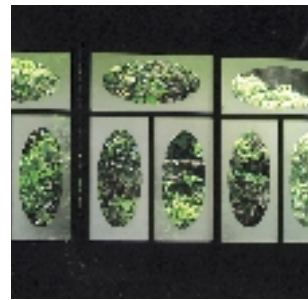
「楽寿館」(三島市)



高雅な雰囲気「楽寿の間」



高床式建築を今に伝える楽寿館



ガラス越しに中庭の緑が見える玄関

楽寿館は、JR三島駅南口の前に広がる自然豊かな公園・楽寿園(国の天然記念物)の中にある。

高木に覆われてたたずむ館は、高床式の数寄屋造り。京風建築の優れた手法を現在に伝える数少ない明治中期の建造物である。倒幕運動を経て明治新政府で活躍し、博愛社(後の日本赤十字社)を創設した小松宮彰仁親王が、明治23年に別邸として建てた。昭和29年に三島市文化財に指定された。

邸宅は2部屋続きの「楽寿の間」と茶室「不老の間」、広縁などからなる。襖、天井、天袋などには数々の大和絵が描かれており、見学者の目を楽しませてくれる。



MY SHIZUOKA

2003年7月 Vol.17

企画・発行 / 静岡県広報室

〒420-8601 静岡市追手町9-6

Tel.054-221-2233 Fax.054-254-4032

ホームページ <http://www.pref.shizuoka.jp/>

E-mail myshizuoka@hq.pref.shizuoka.jp

編集・制作 / 中日新聞社



古紙配合率100%再生紙を使用し、大豆油インキを使用しています。

